

## 発達障害と私達

高三

障害のある人と聞くと、多くの人は体が不自由であったり私生活にサポートが必要であったりする人たちのことを考えるかもしれない。しかし、その中でも私は脳の発達に障害のある発達障害者が最初に頭に浮かぶ。発達障害について興味をもち始めてから少し調べてみると、私たちが知っている発達障害は理解しやすい症状であったことが分かった。一方で、障害のある本人には自覚しづらいほど分かりにくいものもあると気付いたとき、友達や家族、さらには自分にも少なからず障害といるものはあって、意外と身近に存在するものだと驚いた。そのことを知ってから、症状をいろいろ調べていくにつれて、分かりにくく気付けない発達障害はいじめと繋がっているのではないかと考えるようになった。

私が発達障害のある人の存在をしつかりと認識できるようになったのは、中学生になったあたりからだ。それまでは何となくみんなと違った人た

ちがいるという浅い認識の中でその人たちを見ていたが、年齢が上がるにつれて発達障害のある人たちと自分たちは全然違った生き方をしていることに段々と気付いていった。

中学生の頃、ボランティア活動に参加しようと思ったときに割り振られた場所が障害者福祉施設だった。そこで発達障害のある人たちと関わり、一緒に仕事をする中でその人たちの生活についてや施設でのコミュニケーションなどを知ることができた。重度の障害のある人らが障害のない人とコミュニケーションをとるのは価値観や考え方の違いから難しいことを実感した。しかし、障害のある人たちの間ではお互いを理解し支え合っていた。そういった困難と共に生活している仲は、普通に生活する私たち以上に深いものであると気付いた。このボランティアに参加していなければ、発達障害について考えることもなかったかもしれない。

身近にも発達障害のある人たちがいることに気付いたのは、ボランティアを通して発達障害について興味をもち始めてからだだった。ある友達とコミュニケーションをとっているとき、普段はみんなと変わらずに接しているが、考え方や捉え方か

ら段々会話がかみ合わなくなったり、特定の事に  
関しては専門的な知識をもつ一方で学習や読み書  
きが極端にできなかつたりと、私たちの思う「普  
通」とは少し異なる部分があった。調べてみると  
ディスクレシアや自閉症スペクトラム症などにそ  
のような症状があるようだ。私に関わりをもつ中  
で、何度かそのような場面を見た気がする。私は  
障害は誰にでもあつて、抱えている大きさによつ  
て症状の度合いも違つてくると考えている。その  
人たちは少し抱えているものが大きいだけだ。し  
かし、そういった身近に存在する障害を知らない  
人たちは「普通」とは異なる部分を悪いものによ  
うに捉えてしまうだろう。実際、発達障害のある  
友達が、理解のない者にいじられたり馬鹿にされ  
たりしている様子を見てきた。また、知識がなく  
障害について理解がなかった頃は、私も同じよう  
に接してしまうことがあつた。このようなことが  
エスカレートしていくと、必ずいじめに繋がる原  
因になると思う。極端に言えば、いじめの原因は  
見えない発達障害から繋がるものも多いのではな  
いかと考えている。自分とは異なる部分を理解す  
ることは難しいが、「もしかしら何かしらの障

害があり、ずれが生じているかもしれない」とい  
う意識をもつことは難しいことではないと思う。  
しかし、ときには発達障害を理由にいじめが起こ  
らないとも限らない。常に自分を客観的に見て、  
自分にも「普通」ではない部分がどこかにあると  
自覚し、他者と関わり合うことが大切であると考  
える。

発達障害には悪いことだけでなく、魅力的なこ  
ともたくさんある。その人が持つ特性を最大限に  
活かせるような環境づくりやお互いに理解し合お  
うとする意識から、その人たちが少しでも生きや  
すい世の中になってほしいと願っている。